

今週の進捗

知能数理研究室 12056 外山 洋太

新しいモデルの実装

char2word2sent2doc by someone, NAACL 2016

- ▶ 三輪先生から貰った論文が元
- ▶ 元論文は word2sent2doc だった
 - ▶ 単語の embeddings から文，文書の embeddings を順に Bi-directional atttentioned GRU RNN で作成
- ▶ 同じ embedding 生成の方法
 - ▶ Attention 付き
 - ▶ Bi-directional
- ▶ パラメータは主に文字の embeddings と GRU，分類のための全結合層
- ▶ char2word, word2sent, sent2doc の RNN は全て同じ実装
 - ▶ パラメータは別で持つ
 - ▶ 実験ではハイパーパラメータはほとんど一緒

新しいモデルの実装

ハイパーパラメータ

- ▶ embedding サイズ（一方向）
 - ▶ 文字 : 32
 - ▶ 単語 : 32
 - ▶ 文 : 32
 - ▶ 文書 : 32
- ▶ 隠れ層の数 : 1
- ▶ 隠れ層ニューロン数 : 64
- ▶ (出力層ニューロン数 : 1)
- ▶ ドロップアウト 率 : 0.6
- ▶ L2 正則化係数 : $1e-6$
- ▶ context vector サイズ : 32

新しいモデルの実装

その他実験設定

- ▶ 学習回数 : 1024
- ▶ バッチサイズ : 1024 (今後減らします.)
- ▶ 訓練データサイズ : 25'000
- ▶ 評価データサイズ : 25'000
 - ▶ 各々 positive, negative が 12'500 ずつ

新しいモデルの実装

実験結果

実験が終わっていません

TensorFlow と Docker と CUDA

TensorFlow の現在

- ▶ Linux の公式サポートは Ubuntu 14.04 LTS のみ
- ▶ CPU 版は Fedora でも動く
- ▶ GPU 版は Ubuntu と Fedora でディレクトリ構造が少し違うのでそのままでは動かない
 - ⇒ 他の方法
 - ▶ ☉ 公式の Docker イメージ
 - ▶ chroot?

TensorFlow と Docker と CUDA

公式の Docker イメージ

- ▶ ホスト 側 Linux の公式サポート は Ubuntu 14.04 LTS のみ
- ▶ Github のリンク (<https://github.com/tensorflow/tensorflow/tree/master/tensorflow/tools/docker>)
- ▶ とても 速い (TITAN X × 3 で 100 iterations / hour 以上)
 - ▶ CPU × 16 (hyperthreading) で半日 100 iterations くらい